

小平市女性のつどい **講 演 会**

ジェンダーについて あれこれ考えてみよう

『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた—あなたがあなたらしくいられるための29問』

の監修・佐藤文香先生を講師にお迎えして、

ジェンダーにまつわる日々のもやもやがなぜ生まれているのか。

そして、わたしたち一人ひとりが、ジェンダー平等のために何ができるのかを考えます。

2025年 **12月14日** 日
14:00～16:00 (開場 13:40)

女性専用車両って
なぜ必要なの？そもそも
ジェンダーって？「リケジョ」
「料理男子」って
ほめ言葉？女性活躍＝
ジェンダー平等？日本はなぜ
ジェンダーギャップ指数
が低いの？

講師/ 佐藤 文香氏 (一橋大学大学院教授)

一橋大学大学院社会学研究科教授。専門はジェンダーの社会理論・社会学、戦争・軍隊の社会学。

著書に『軍事組織とジェンダー』（慶応義塾大学出版会、2004年）、

『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』（明石書店、2019年）、

『女性兵士という難問』（慶応義塾大学出版会、2022年）、『男性学基本論文集』（勁草書房、2024年）

『フェミニズムから読みなおすインターセクショナルリティ基本論文集』（慶応義塾大学出版会、2025年）など。

場所

中央公民館 学習室4

参加費

500円

定員

会場 40名 オンライン 40名

申込方法

右記のQRコードから、またはメール・電話

メールアドレス: kodairatsudoi@gmail.com

電話: 080-1244-7368 (夜間のみ/岩嶋)

青梅街道より南へ徒歩5分
小平市小川町2丁目1325

小平市女性のつどい講演会45年の歴史

1979	私の歩んできた道	市川 房枝
1980	私たちの暮らしと国際婦人年	中島 通子
1981	現代の家庭と教育	丸岡 秀子
1982	小平市の婦人に関する実態調査の結果から	神田 道子
1983	ともに生き、ともに学び、ともに育ちあうために	勝部三枝子
1984	老後設計を考えた現代のおつきあい	吉沢 久子
1985	国際婦人年と私 男女差別を考える	天野 正子
1986	女の老いと看とりのあした	沖藤 典子
1987	男女共生の時代	金森トシエ
1988	家族をめぐる	米田佐代子
1989	人間らしく生きる 愛・いのち・暮らし	半田たつこ
1990	今どきの女と男の結婚事情 花婿学校見聞記	板本 洋子
1991	一億人のウェルネス 健康革命	砂田登志子
1992	これからの家族 週休2日制をきっかけに考える	金城 清子
1993	家族する・・・わたし	佐藤 禮子
1994	女の土俵、男の土俵	宝井 琴桜
1995	あなたは どうする？ 非婚 結婚 離婚 再婚	木本喜美子
1996	人として 女として生きる 車いすのわたしが好き	安積 遊歩
1997	自分らしい生き方の発見 身近なところの再発見	天野 正子
1998	老後のスタートは青春から 老後の現実と未来	羽田 澄子
1999	働くことから 見えてくる	黒田あゆみ
2000	いま、家族になにが起っているのか	上野千鶴子
2001	女性の参画で変わる社会	三井マリ子
2002	女の生き方・家族の問題	渥美 雅子
2003	企業を支えた夫・妻は？	鹿島 敬
2004	バトンタッチは今も続く 男女平等への道のり	赤松 良子
2005	お笑いジェンダー論 男の実践 家事 育児	瀬地山 角
2006	教えて！ 男女共同参画条例ってな～に	中島 通子
2007	「大いなる母」チャングム	水田 宗子
2008	異質が大事な時代 自分流ワーク・ライフ・バランスを	辛 淑玉
2009	どう変わった 結婚 家族のあり方	山田 昌弘
2010	女のこだわり 男の忘れもの	古屋 和雄
2011	輝け！いのち ～子どもたちに教えられたこと～	細谷 亮太
2012	壁を超える ポジティブ・アクションであなたはもっと輝ける！	辻村みよ子
2013	すぐに役立つ防災術 ～小さないのちを守るために～	あんどうりす
2014	今の時代を あなたなら どう生きる	上野千鶴子
2015	映画上映 「何を怖れる」と監督トーク	松井 久子
2016	拡がりつつある格差社会 あなたはどう思いますか？	湯浅 誠
2017	あなたにも貧困のリスクがある	藤田 孝典
2019	ビジョナリーとしての津田梅子	高橋 裕子
2021	選択的夫婦別姓からみえてくるジェンダーの課題	井田 奈穂
2022	みんなに関わるジェンダー平等	皆川満寿美
2023	これから求められる男女共同参画センターの役割とは	瀬山 紀子
2024	私たちの明日を語ろう 時代を越えて世代を超えて	能條 桃子

※2018 年は開催なし、2020 年は新型コロナウイルス感染症流行のため実施せず。